

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「土砂災害から命を守るためにできること」

宮崎県 宮崎市立国富小学校 6年 ^{しまだ}嶋田 ^{みお}澤

「弟が産まれたよ。」というメールが私にとどいたのは、平成30年9月30日の朝でした。この時、台風24号が宮崎にやってきました。まどの外では、ゴーゴーという音をたてる強い風と、とても激しい雨がふっていました。いつもならば、大雨や台風の際は、家から出ることはありませんが、この日は、産まれた弟に早く会いたくて、病院に向かいました。病院に行く途中には、清武川が流れています。車のまどから川を見ると、私はとてもおどろきました。川の水は茶色くにごっていて、橋のぎりぎりまで水かさが増していました。水の流れはとても速く、その流れの中には、大木が何本も流されていてびっくりしました。病院にとう着しましたが、お母さんのいた病院は川がとなりであり、その川ははんらんしかけていました。弟は無事に産まれましたが、私にとってとてもおそろしい体験でした。この台風のえいきょうで死者4人、重軽傷者227人でたと知り、おどろいて、悲しくなりました。

そこで私はこの体験を受け、土砂災害について調べてみました。私の住んでいる九州で起きた大きな土砂災害は、九州北部ごう雨がありました。この災害では、死者が37名も出たそうです。きつとなくなった方や、そのご家族はとても悲しいと思います。私は土砂災害で多くの命がうばわれていると知りました。私は、どうすれば土砂災害から命をうばわれることを防ぐことができるか考えました。考えた結果、私は4つのことを思いつきました。1つは、災害が発生しそうな場所にはネットなどかけて住民の安全を守ってもらうことはできないかと考えました。次に、森や川などの自然の中に入る時は、気象情報やその地域の地形のことを知っておく必要があるのではないかと考えました。もう1つは、天候の状況によっては、楽しみなことであっても予定を变こうしたり、行かないという決断をすることが大切だと考えました。最後にひ難をするという行動についてくわしく知るべきではないかと考えました。今年から、ひ難を判断する材料として、5段階に分けた警戒レベルが使われるようになっていました。レベル1は、災害に対する心構えを高める段階を示します。レベル2は、ひ難行動の確にんをする段階です。この時は、ハザードマップなどを使ってひ難行動を確にんすることが大切だと思います。レベル3は、ひ難に時間がかかる高れい者やしょうがい者の方がひ難を始める段階を示します。この時、小さい子どもづれの方は、いっしょにひ難をしてもいいと思います。レベル4は、非常に危険な状況を示します。全員ひ難をしないとけない段階です。レベル5は、極めて危険な状況を示します。この時は、すでに災害が発生しているかもしれない段階です。山がくずれていたり、川がはんらんして道には水があふれて通れないかもしれません。そのような時は、命を守る行動をとる必要があります。もし家や学校から出られない状況になってしまったら、できるだけ高い所ににげようと思います。

土砂災害は、建物や財産、時には人の命を一しゅんでうばうおそろしい災害です。私は自宅にいる場合はどこにひ難すればよいか、学校にいる場合、デパートで買い物をしている場合など、どのような行動をすればよいかハザードマップを使って調べておきたいと思いました。土砂災害で命を失うことがないようにするためには、情報を確にんし、にげるという行動をとることが大切だと考えます。自分の命や大切な人の命を守るために、行動できる人になりたいと思います。